

「公益財団法人 日本城郭協会 平成29年度事業報告書」

平成30年3月31日

1、「続日本100名城」の選定発表と「公式ガイドブック」発行

公益財団法人 日本城郭協会は平成29年度に創立50周年を迎えたが、その記念事業として現行の「日本100名城」に続く100名城を新たに選定した。記者発表は平成29年4月6日（城の日）文部科学省記者会見室で小和田理事長が行った。全国紙、地方紙、通信社、テレビ局、雑誌社などメディア各社多数が出席した。

創立40周年記念事業として行った「日本100名城選定」は、その後のスタンプラリー事業と共に、国民の城郭に対する関心を飛躍的に高め、城郭文化の発展に大きく貢献をしたことは、城郭関係者のみならず社会的にも高く評価されている。

「続日本100名城」発表後、スタンプラリー事業の準備を進め、12月には学研からスタンプ帳付の「続日本100名城公式ガイドブック」（協会監修）を発行した。売れ行きは好調。

2、「お城EXPO・2017の開催」

平成28年12月に開催した「お城EXPO・2016」

は大盛況で、城郭ファンのみならず社会的にも高い評価を得た。

平成29年度も主催4者「(公財)日本城郭協会・(株)ムラヤマ・(株)東北新社・(株)パシフィコ横浜」による実行委員会によって12月22日―24日の3日間で開催した。開催会場は前回と同じパシフィコ横浜。小和田理事長を始め、協会の理事、学術委員、顧問の先生方による「厳選プログラム」の講演や、「続日本100名城」パネル展、「お城自由研究コンテスト」作品展、お城の写真展など多彩なプログラムのほか、「熊本城復興義援金募集」も行った。入場者約1万9千人で好評だった。

3、「日本100名城スタンプラリー強化」及び「日本100名城・城カードの監修」

当協会選定の日本100名城を探訪する「100名城スタンプラリー」はますます評価が高く、100名城登城達成者は30年3月で2千人を超えた。

また日本 100 名城スタンプラリーを補完し、城郭文化の振興にも寄与する企画としての「日本 100 名城カード」発行は株式会社ムラヤマが行い協会は企画・監修することになった。

4、「城の自由研究コンテスト・親子名城見学会の継続・強化」

平成 29 年度の第 16 回小学生・中学生による「城の自由研究コンテスト」及び「親子名城見学会」は文部科学省の後援をえて開催した。

まず「城の自由研究コンテスト」は前年より 24 作品多い 392 作品の応募があった。

3 次にわたる審査をへて、文部科学大臣賞ほか、20 作品が優秀賞などに選ばれた。今回から学校や指導者を顕彰する「団体賞」を創設した。

児童・保護者さらに教育関係者からの関心や注目度を上げるため、広報活動の活性化をはかった。

「親子名城見学会」は江戸城、白河小峰城など 5 城で開催したが、いくつかの城では、当該城の学芸員が普段見られない遺構や発掘現場を案内してくれた。参加した保護者から子供たちの興味や関心が一段と高まったとの報告が寄せられた。

5、「日本城郭検定の強化・充実」

日本城郭検定は本年度も 6 月と 11 月の 2 回開催した。全国 4 会場で延べ 3300 人が各クラスに挑戦した。なお会場数を増やすべく試みたが実現できなかった。

6、「熊本城復興義援金などの熊本城復興支援事業を継続」

平成 28 年度新設した熊本城復興支援のための「熊本城復興義援金」は 29 年度も継続し「お城 EXPO」など様々な場面で幅広く寄付金を募集した結果、100 万 5960 円の義援金が寄せられ、3 月末熊本市の「熊本城災害復旧支援金」の口座に全額振り込んだ。

7、「城郭セミナー及び城郭イベントの開催」

各都道府県や各市の生涯学習部門から「城講座」の依頼が最近多くなっているが、これらの要望には積極的に対応して、人々の城への関心の高まりに応えた。品川区や読売カルチャーの「城講座」で講演を行った。また会員や一般の城郭ファンの要望に応じて「城郭探訪イベント」を滝山城など 3 カ所で開催した。

8、「学術委員会の活動強化及び学術委員の拡充」

学術委員会の活動を強化する。具体的には「日本城郭検定」の問題作成を主導するとともに、「城郭講座・城郭セミナー」開催など積極的に対応した。学術委員に城郭研究者や各城の学芸員を新たに委嘱し、学術委員は9人になった。

9、「ヨーロッパ100名城の調査・研究会」

「ヨーロッパ100名城」の社会的認知度を高めるための調査研究の旅行企画などを旅行会社と協議したが、実現できなかった。

10、「テレビ・新聞・出版物への監修・助言の体制強化」

テレビ・新聞などマスコミの城郭に関する問い合わせには、学術委員と協力して事務局全体で対応した。また一般の人々からの質問にもきめ細かく回答して感謝されたが、予定したデータの整備などは不十分で課題として残った。

11、「会報・ホームページの一層の充実および会員増強への取り組み強化」

会報の増ページは会員からの評価を得たが、会員の寄稿欄の一層の充実を図った。また多くの会員から要望のあった「会員バッチ」を作成、会報などを通じて頒布した。なお会員増強に取り組んだ結果昨年度比37%増の159人が入会した。

会報やホームページを充実させるため城郭情報収集の仕組みとして各地に広報協力員を置くこととし、会員に呼びかけた結果、数人の協力を得られ運用を始めた。